



# 夢の本棚

発行所：松居直コレクションプロジェクト  
代 表：金戸 美紀子  
事務局：石川県小松市 小馬出町10-3  
空とこども絵本館  
☎ 0761-23-0033  
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える <親子読書の奨励> ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える <絵本文化の研究> ③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える <絵本文化の継承>

## 石井桃子から学ぶ④

子どもたちへの願い

### 編集者のこころ

◆石井先生は、自分の編集された岩波の子どもの本の50周年記念の時に「樺の木のように



力強く」という文章を書いてらっしゃる◆子どもの本を企画し、それを今あるような形に決め発刊するまでの私たち編集者のところが、「長い戦争中に抑圧されてきた子どもたちに、もっと広く豊かで美しい世界に遊んでもらいたい」という気概に燃えていたことは確かです◆「樺の木のように根を深く土の中に張り、力強い人間になってもいい」といって、ちよつとやそつとで、そつとの風に吹き飛ばされぬように

うな人に育ってもらいたいというのが、私の変わらぬ願いです◆ほんとにそういう願いを石井先生は持ってました。私は度々いろいろな話を聞きましたけれども、ほんとに子どもへの成長というものに真剣な関心を持ってらしたんです。

### 子どもの本の研究会

◆そういうことから、石井先生とお付き合いすることになりました、石井桃子先生と瀬田貞二さんと鈴木晋一さんと乾富子さんと私の5人で、「子どもの本の研究会」というのを毎月やるようになりまして◆後で、渡辺茂男さんがお入りになり、6人で結論をまとめたのが『子どもと文学』



という本で、中央公論社から出たわけですが、子ども、日本の児童文学というのは、ほんとになんか子どものことを一生懸命考えてらっしゃるんです◆願ってらっしゃることは分かるんですけど、子どものセンスとか子どもの好奇心とか、それから子どもの理屈の立て方とか、そういうものどっかこうずれる。作者の気持ちむしろ子どもに押しつけるという、そういう傾向がかなり強いんですね。作者の好みというのが前面に出てくる◆まあ「童心主義」っていうのもそうですし、「生活童話」っていうのもそうですけれども、ほんとに子どもを真剣に考えてらっしゃるんだけれど、子どもと対話ができない◆ところが、外国の本では、ほんとにケストナーにしてもリンドグレンにしてもそうです。子どもとの対話ができる。子どもと同じ次元に立って

発想したり感じたり、そういうことがあるわけですね◆それで一回、日本児童文学の問題点のをしつかり押さえ、これからどうすればいいのかということをやろうと思って編集したのが、あの『子どもと文学』という本なんです◆その石井先生との研究会の中で、さらに石井先生の日本語の表現の仕方、それから子どもに語る、語りの発想の仕方、そういうものを私たちは学ぶことができました。

### 一番評価の高い絵本

◆これは、石井先生の絵本の中で一番評価の高い本なんです◆この文章をお読みになりますと、無駄な言葉が一言も使っていないんです。目に見えるように書いてらっしゃる。これは読売新



聞に発表した、石井先生がなされた作品を読んです◆目に見えるように書くってのはこういうことか、子ども向けの物語のストーリーの展開の仕方、組み立て方、そういうものは、この作品を読むととってよく分かる◆それですぐに「絵本にしてもいいですか」ってことをお断りして絵本にしました◆この本の石井さんの言葉の使い方がのが見事で、翻訳ですけれども、これは「日本語で語る」ってことをなさってるんですね。翻訳と思えないです◆これはまさに「石井桃子作」みたいな感じがしますけれど、も、イギリスのエインズワースの作品の選比方とそれの訳し方ってのは、「これはちよつと、他の人ではできないなあ」という感じがします。それにまあ、堀内誠一さんが見事な絵をつけてらっしゃるんですね。(つづく)